

GREEN

全農長野県本部情報 グリーンリーダー

Rader

2025

5

Vol.552



©松本山雅FC



A-Reports

・令和7年度会員会議を開催	1
・和牛ワールドオークション2025に「信州プレミアム牛肉」を初出品	2
・政府備蓄米の保管倉庫と精米工場を公開	3
・インバウンド向け県産品PR動画を制作	3
・上期組織品目商品研修会「エコーブ新茶現地研修会」開催	4
・中日ビルでアルストロメリアをプレゼント	5
・JA上伊那産アスパラガスのトップセールス	5
・春休みに合わせて総合宣伝活動	6
・令和6年度 定年退職者紹介	7

・令和7年度 新採用職員紹介	7
・松本山雅FCにベンチコートを贈呈	8
・JA全農長野の事業現況	8
・5月のラジオ番組表	8
・編集後記	8



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

(改革推進・企画課)

令和7年度 会員会議を開催

J A全農長野は会員会議を3月27日(木)長野市J Aビル13階特I会議室において、会員J AのWeb出席により開催しました。

神農佳人運営委員会会長が議長を務め、「中期事業計画（令和7～9年度）並びに令和7年度事業計画」を付議し、原案どおり承認されました。

■令和7年度事業計画要旨■

総供給販売高計画を2,700億円とします。

「農業振興事業」は、生産基盤維持に向け、マーケットや地域実態、担い手ニーズに

対し、三部連携の担い手推進センターによる生産・販売提案、支援機能を発揮し、J Aと一体となり生産振興を推進します。また、気候変動による高温や激甚化する災害への対応として、排水対策技術や施設化を提案するとともに、優良品種の検討をすすめます。労働力不足解消や品質・生産性向上対策では、機械化や省力栽培技術などを活用して作業効率化をはかり、生産基盤の維持拡大をすすめるとともに、作業の省力化や反収向上に向けた農業DXの普及を推進します。

「生産販売事業」は、生産コスト上昇分の価格転嫁実現に向け、卸売会社との連携を強化し、実需者営業の拡充をはかるとともに、輸出事業の拡大や加工・業務対応の強化により生産者手取りの向上に努めます。また、長野米の需要に基づく生産の推進と、J Aと連携した卸売業者や実需者への直接営業の強化により、長野米有利販売を実現し、長期的かつ安定した生産者所得の増大に取り組みます。

「生産購買事業」は、段ボール・肥料の近似規格や原料の集約・見直しをすすめるとともに、「運送業界における時間外労働の上限規制」に対応するため、パレット輸送に適合した包材の開発をすすめます。また、県域農機整備センター2拠点による整備受入の拡大と、J A整備士の育成により、J A農機整備事業の強化をはかるとともに、県域推奨型式を中心とした重点購買や中古機の流通拡充による生産者コスト低減に取り組みます。

「畜産酪農事業」は、生産意欲のある若手後継者への経営拡大を支援し、生産基盤維持と販売数量の確保をはかるとともに、信州産畜産物のブランド力向上による販売強化や安全安心・品質向上による有利販売に取り組み、生産者手取りを確保します。また、県内食肉処理施設の整備を県・市町村等とすすめ、県産食肉の流通体制を堅持します。

「くらし支援事業」は、農業用燃料支援対策の継続、ホームエネルギー取扱体制の構築、Web対応による顧客の固定化・新規獲得をはかるとともに、新たなLPガス小売事業方式の検討・展開により事業強化に取り組みます。eコマース事業は信州産農畜産物・加工品の出品を拡充し、「J Aタウン」の事業拡大に取り組みます。セレモニー事業は、多様化する葬儀形態への対応力を強化し、葬儀件数とシェア確保につながる虹のホールグループ活動を展開します。

今後も県本部総合経営管理制を堅持し、県域結集の拡大と結集成果を反映した会員・組合員へのメリット還元を努めてまいります。



開会挨拶をする神農会長

畜産酪農課

和牛ワールドオークション2025に 「信州プレミアム牛肉」を初出品

JA全農長野畜産酪農課は、4月4日(金)～5日(土)に和牛マスター食肉センター（兵庫県姫路市）で開催された和牛ワールドオークション2025（主催／和牛マスター輸出拡大コンソーシアム）に「信州プレミアム牛肉」を初めて出品しました（＝表紙左上）。

今年で3回目となる同オークションは、世界各国から牛肉取扱い事業者（バイヤー）が集まり、日本の銘柄和牛のオークションを行い、和牛の質の高さや認知度を高め、更なる輸出の拡大をはかるイベントです。

初日は銘柄和牛の食べ比べや海外で人気の着物姿で肉をさばく「和牛着物ブッチャー（肉職人）」による肉のカット実演など様々な催しが行われました。畜産酪農課では「信州プレミアム牛肉」のブランドPRブースの出展と、「信州プレミアム牛肉」「仙台牛」「鳥取和牛」の3銘柄の食べ比べに牛肉を提供しました。来場したバイヤーから「肉のおいしさが非常に感じられる」「肉の甘みがとても良い」「焼いたときの風味がとても良い」などの評価をいただき、信州プレミアム牛肉の特徴である「オレイン酸値」の高さが評価されました。

会場では井出和士畜産酪農部長が信州プレミアム牛肉の特徴について、日本で初めて“おいしさ”を基準に認定されたブランドであること、澄んだ清らかな水と雄大な自然こそが信州プレミアム牛肉ならではの、薫り高く、とろけるように柔らかい、極上の味わいを生み出す秘訣であること、そして「牛が、いつ・何を食べて育ったか、という飼育履歴を県が徹底管理することで、消費者の皆様に安全で安心な牛肉をお届けする仕組みが確立されています」とPRしました。

2日目のオークションには、米国、カナダ、EU、台湾、オーストラリアなど14の国と地域のバイヤー



集まったバイヤーに信州プレミアム牛肉をPRする井出部長（左）



信州プレミアム牛肉をセリ落としたオーストラリアのバイヤーチーム

約120名がオークション（セリ）に参加しました。神戸牛や仙台牛、松坂牛、近江牛をはじめ出品されたブランド牛ごとにチャンピオンが選ばれ、4頭出品した信州プレミアム牛肉の内のチャンピオン牛はオーストラリアから5,490円/kgの高値でセリ落とされました。他の出品牛も3,300円/kg以上の高値でセリ落とされる中で、信州プレミアム牛肉の品質の高さが認められる価格となりました。また、2頭は米国、1頭はカナダにセリ落とされました。米国ではトランプ政権が日本との関税引き上げを表明した直後であったため、バイヤーの対応は慎重でした。また台湾などは非常に多くのバイヤーが来場して様々な銘柄和牛をセリ落とし、購買意欲と和牛への関心の高さがうかがえました。

畜産酪農課は、今後も米国を中心とした和牛の輸出事業の拡大に向け、市場会社や輸出事業者との情報交換や海外から訪れるバイヤーの視察対応などに積極的に取り組むことで、生産者の手取り拡大に努めます。また、信州プレミアム牛肉および信州和牛・信州アルプス牛の消費拡大にも積極的に取り組みます。

米穀課

政府備蓄米の保管倉庫と精米工場を公開

JA全農長野米穀課は、政府備蓄米の保管倉庫と精米工場をマスコミに公開しました。

4月3日(木)に公開した保管倉庫には、長野県産「コシヒカリ」「風さやか」のほか、県外産の備蓄米が30kgの米袋で6メートルほどの高さまで整然と積み上げられ、保管されていました。入り口には防鼠防虫対策として鼠返しや粘着シートがあり、鮮度を保つために、玄米の温度や湿度も毎日確認されています。

7日(月)に公開した精米工場にはこの日、3日に公開した保管倉庫から「コシヒカリ」「風さやか」計12.24tが搬入されました(=表紙右上)。30kgの袋が一袋ずつ手で開けられて荷受け口に投入された後、専用の機械で小石や木くずなどの異物が取り除かれてタンクに保管されます。玄米の一部は工場内の検査室で水分量や品質などが検査され、通常の米と変わらない品質であることが確認されました。精米したお米は、再度品質検査を受け、色彩選別機や金属検出機などを通り、ロボットパレタイザで出荷準備される工程も公開されました。

全農長野は1回目の入札で、全農を通じて7,000t超の備蓄米を確保し、この内約1,000tは注文があった県内の卸売業者に販売され、それ以外を県外の取引先へ搬入し、県内外のコンビニや弁当店、小売店などに販売されます。米穀課は、「県民の皆様には徹底した保管管理と品質管理された精米が流通するので、安心して購入していただきたい」と、今回マスコミに公開しました。長野県内では4月10日から店頭に並び、小売価格は5kg3,000円から3,500円程度の見込みです。

両日とも12社の県内マスコミの取材があり、注目の高さがうかがわれました。



倉庫に積み上げられた備蓄米



精米工場に搬入され荷受け口に投入

総務広報課

インバウンド向け県産品PR動画を制作

JA全農長野は長野県協力の下、インバウンド向けの県産品PR動画を制作しました。

県が昨年10月にアメリカで開催した県産品をPRするレセプション時に撮影した動画を元に制作し、海外から長野県へ来た観光客に「信州プレミアム牛肉」と米「風さやか」をPRし、滞在中に食べてもらうことが目的です。約3分間の動画はアニメーションを組み合わせ、インパクトのある動画に仕上がりました。

既に全農長野Youtubeチャンネルで公開しているほか、4月4日と5日に開催された和牛ワールドオークション2025(本誌2ページ)で放映、今後、県が海外で開催するレセプションでも活用されます。



(くらし支援課)

長野県農協生活事業推進協議会 生活専門部会主催 令和7年度上期組織品目商品研修会 「エコープ新茶現地研修会」開催

長野県農協生活事業推進協議会生活専門部会（事務局／ＪＡ全農長野くらし支援課）は４月８日（火）、「令和７年度上期組織品目商品研修会」を開催し、県下ＪＡの担当者など総勢２０名で「エコープ新茶」を製造する、静岡県島田市のハラダ製茶（株）向谷工場と同社自社農園の視察を行いました。

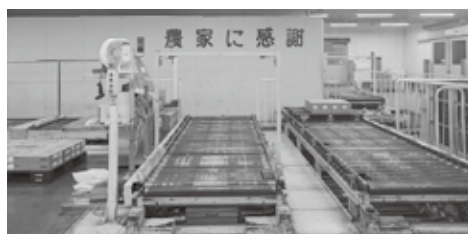
ハラダ製茶（株）では、茶農家からの茶葉の集荷を行うとともに、契約農園や自社農園で収穫した茶葉を加工・精製し、従業員による商品の目視確認など厳しい品質管理のもと製品化し出荷しています。同社から「近年は手軽に飲めるペットボトル入り緑茶のニーズの増加により茶葉の需要は停滞し、価格も低下傾向となっている。高齢化や担い手不足で農家数は減り、収穫量も比例して緩やかに減少している」と説明がありました。また「収益性の高い一番茶（最初の収穫の茶葉）の構成比が重要となるが、ペットボトル緑茶の需要により、収穫時期が遅く収益性の低い二番茶以降の構成比が高まっていることなどから、廃業する農家もある」と現状も伝えられました。

視察先の向谷工場では、専用の機械により茶葉が袋詰めされて出荷される工程を見学しました。これから最盛期を迎える「エコープ新茶」も、一袋ごとに計量、窒素充填、脱気・真空を経て出荷されます。新茶の時期は２４時間稼働し、一番茶の鮮度が保たれた状態で製品化されます。参加者はこれらの説明を受け、改めて「エコープ新茶」のこだわりとおいしさの理由を再確認しました。また、同工場では、やきのりの製造や、ギフト用品の梱包作業も行っているとの説明もありました。

工場見学後には、牧之原台地にあるハラダ製茶（株）自社農園の視察を行いました（＝表紙右下）。参加者は、この広い茶畑で約２週間後に収穫予定の新芽を目にして今年も「エコープ新茶」の季節がすぐそこに来ていることを実感し「多くの組合員の皆様に新茶をお届けしたい」との思いを新たにしました。



計量から袋詰めまでの説明を受ける参加者



向谷工場の出荷レーン

組合員のみなさまへ

エコープ 新茶

新茶 シルバー
一番茶の新芽を使用した「旨み、こく、まろやかさ」が特徴の新茶です。
1kg (167g×6本入) 11,340円 (税込) 10,500円 (税別)
【お届け予定時期／5月上旬頃】

新茶 白翔 数量限定 500g (167g×3本入)
八十八夜前夜の芽摘みしたばかりの一番茶の新芽を使用した。芳醇な香りとコク深いまろやかな味わいが特徴です。
11,400円 (税込) 10,556円 (税別)
【お届け予定時期／4月下旬頃】

新茶 ゴールド
お茶のおいしさは芽の若さが決め手。一番茶の芽摘みしたばかりの新芽で作った緑茶です。
1kg (167g×6本入) 16,200円 (税込) 15,000円 (税別)
【お届け予定時期／5月上旬頃】

新茶 グリーン
おいしさと経済性を考えてブレンドしました。新茶の風味はそのまます。
1kg (167g×6本入) 9,180円 (税込) 8,500円 (税別)
【お届け予定時期／5月中旬頃】

新茶 匠 (椿茶)
飲めば芽の部分を含んださわやかな緑茶です。
1kg (167g×6本入) 7,020円 (税込) 6,500円 (税別)
【お届け予定時期／5月下旬頃】

品質と安心のこだわり

- ◆八十八夜前後のやわらかい新芽を使用しています。
- ◆真空+窒素ガス充填で新鮮さを保持しています。賞味期限は1年間で、新茶の香り・旨味等が楽しめます。
- ◆安心・安全のための品質管理の徹底を行っています。
 - ・定期的な残留農薬等の検査の実施
 - ・国際規格「ISO9001」取得工場生産
 - ・茶畑から商品梱包までの生産履歴システム確立
 - ・自社農園・契約農園におけるGAP認証取得

お茶の淹れ方についてはこちらから

ご予約承り中!
ご予約・お問い合わせは
最寄りのJA
またはA・コープ店へ

※表示価格はJA全農長野希望小売価格です。※一部、商品価格が異なるJAがあります。

一番茶（新茶）は、その年初めて萌芽した芽を摘みます。うま味成分であるテアニンが多く含まれており、二番茶と比較して苦味が少なくまろやかな旨みと味わいがあります。新茶特有のさわやかな香りと旨みをギュッと閉じ込めた「エコープ新茶」をぜひ、JAでご注文ください。本年も、JAでは「エコープ新茶」の重点推進を実施しており、多くの皆さんにご利用いただけるようPRを行っています。

今後くらし支援課では、商品研修会等とおしてエコープマーク商品の良さをJA職員、組合員の皆様に広くお知らせしてまいります。

(名古屋販売事務所)

中日ビルでアルストロメリアをプレゼント

J A全農長野名古屋販売事務所は3月12日(水)から14日(金)の3日間、名古屋市栄の中日ビルで、アルストロメリアをプレゼントしました。これは、中日ビル2階のSAKAeL MARCHE（サカエマルシェ）で1,500円以上の買い物をしレシートを5階の長野県名古屋事務所に持参するとアルストロメリアをプレゼントするという企画で、長野県のアルストロメリアをPRするとともに、各家庭でも飾っていただこうと実施しました。

事前に県名古屋事務所前のデジタルサイネージで告知したことで多くのお客様が来場し、初日には、華やかなアルストロメリアを持って歩く姿があちこちでも見られました。中には「ホワイトデーに渡そうと思って」と持ち帰るお客様もいました。

アルストロメリアは2本入りで蕾もたくさん付いており、「水を替えて切り上げて長く楽しんでください」と伝えながら手渡しました。

全農長野名古屋販売事務所は、日常生活に花を取り入れていただけるよう、今後も様々なイベントに合わせた宣伝活動に取り組んでまいります。



サカエマルシェの入り口



アルストロメリアのプレゼントを告知するデジタルサイネージ

(名古屋販売事務所)

J A上伊那産アスパラガスのトップセールス

J A全農長野名古屋販売事務所とJ A上伊那は3月22日(土)、名古屋市中央卸売市場北部市場のセントライ青果(株)の競売場でJ A上伊那産アスパラガスのトップセールスを行いました。

J A上伊那では今期から自動計量結束機を本格導入し、産地共選化をすすめることで生産拡大をすすめています。西村篤組合長は産地のアスパラガス生産拡大への取り組み



大好評だった試食

を伝え「冬に栄養をたくさん蓄えた上伊那産の

春芽のアスパラガスを多くの人に味わっていただきたい」と挨拶しました。野澤典生アスパラガス専門部会長は「共選化することで地域の産業として拡大することができます。自信をもっておすすめします」とアピールしました。

試食に提供した「アスパラガスとしめじのバター炒め」は、アスパラガスを炒めることで旨味が凝縮され、「おいしい」と声が上がり、買参人や仲卸、パイヤーの皆さんに大好評でした。



挨拶をする西村組合長

(販売流通企画課)

春休みに合わせて総合宣伝活動

J A全農長野生産販売部は春休みに合わせ、長野県産農産物のブランド力向上を目的に総合宣伝活動に取り組みました。

3月20日(木・祝)、長野市トイゴで開催された「SBCこどもフェスタ」で、フラワーアレンジメント教室と長野米おにぎりの提供を行いました。イベントには「おしごとたいけん!ものづくりたいけん!」をテーマに子どもたちに学びの機会を提供する様々な企業・団体が出展し、主催者発表で園児や小学生の家族連れ約5,500名が来場しました。

フラワーアレンジメント教室では、長野県が生産量全国1位を誇るアルストロメリアやラナンキュラスを準備し、生花店スタッフと全農長野職員が、花材の紹介とアレンジメントが上手に作れるポイントを伝授しました。参加した親子は花の向きや長さを工夫しながら自分らしいアレンジメントを楽しんでいました。

おにぎりの提供では、消費マインドを喚起するために米飯の喫食や花の購入頻度について、家族ごとに簡単なアンケートに協力をお願いし、426件の回答をいただきました。「信州三ツ山マーク」「信州力」の認知度(知っていた、見たことはある)は65%を超え、県内での浸透ぶりがうかがえました。

3月1日から31日までの1カ月間、JR長野駅とJR上田駅の新幹線改札付近のデジタルサイネージで「おいしさの理由(それが僕らの仕事編)30秒」を放映しました。生産者が出演するこの動画は、米・レタス・りんご・えのきたけ・アルストロメリアの栽培風景とともに、農業の役割を紹介するテロップを添え、食や農への関心が高まる昨今に最適なメッセージとなりました。

生産販売部では、宣伝やイベントをとおして食育・花育活動を継続してまいります。



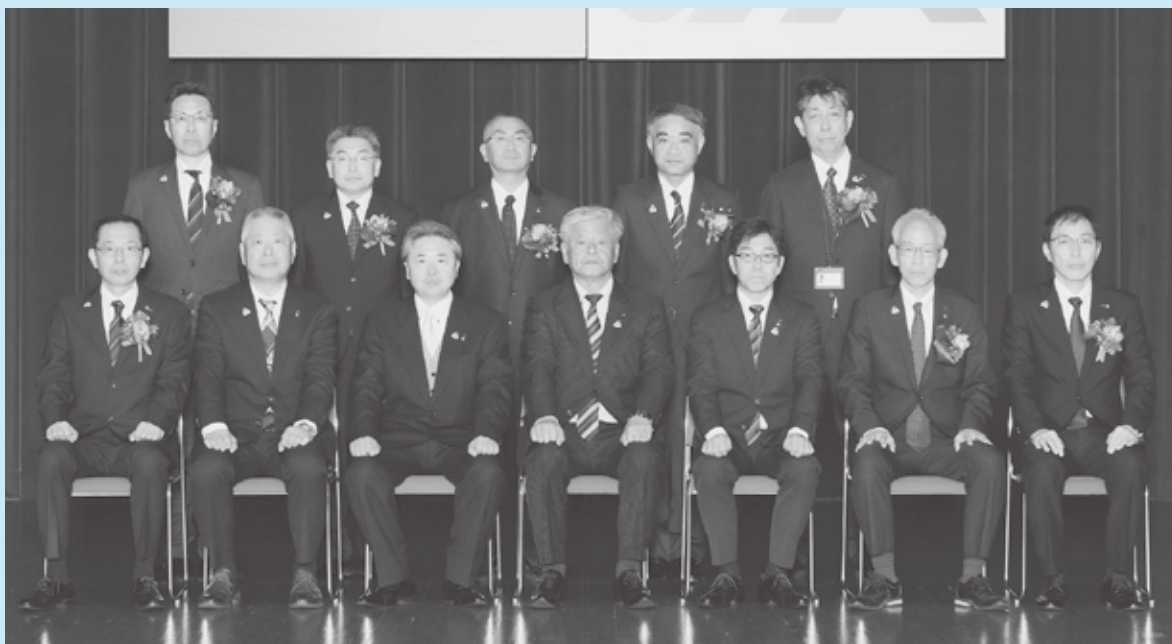
おいしさの理由 (それが僕らの仕事)

みんなもう気づいている
当たり前の日々なんかないってこと
自然とともに生き
台地の恵みを実らせて
みんなのもとへと届ける
それこそが命をつなぐ営み
それが僕らの仕事なんだ

「おいしさの理由
(それが僕らの仕事)」は
こちらからご覧いただけます



令和6年度 定年退職者紹介



2列目左から 青木 澄人、依田 稔、由井 正明、宮本 浩信、須田 孝徳
 1列目左から 竜野 竜、根津副本部長、長谷川県本部長、神農会長、高木副本部長、那須 裕史、吉村 智之
 対象者は**太字**で表記

令和7年度 新採用職員紹介



3列目左から 中條 沙也花、馬目 行雲、水田 陸斗、二村 有美、本間 萌葉、宮嶋 倭央
 2列目左から 堀田 侑吾、東方 桃子、石曾根 淳、福士 海羽、大久保 侑星、内堀 健成、山口 葵育、建石 真太
 1列目左から 鈴木 桃菜、米澤 笑美、根津副本部長、長谷川県本部長、神農会長、高木副本部長、佐藤管理部長、
 宮本 隼汰、平林 舞宙

対象者は**太字**で表記

JA全農長野の事業現況

令和7年度3月末総供給販売高実績表 (単位:百万円、%)

品目	区分	当年度実績	計画比	前年比
生産振興課		66	88	90
野菜種苗センター		173	85	98
生産振興部計		239	85	95
米	穀	22,364	126	123
果実花き		54,177	109	111
野菜きのこ		75,209	98	105
営業		15,133	95	105
生産販売部計		166,884	104	109
包装資材		8,907	95	102
生産資材		13,387	99	104
農業機械		6,421	104	109
施設住宅		5,282	120	55
生産購買部計		33,997	102	92
畜産酪農		32,658	104	101
三岳牧場		308	85	111
S P F繁殖センター		272	86	95
八ヶ岳牧場		304	99	112
畜産酪農部計		33,542	104	101
燃料・ホームエネルギー		28,082	97	102
S S協同経営		7,905	106	103
生活		7,871	102	87
生活部計		43,857	99	99
長野県本部計		278,387	103	104

(内部販売高含む)

松本山雅FCに ベンチコートを贈呈

JA全農長野は、松本山雅FCにベンチコート38枚を贈呈しました。

3月23日(日)のホームゲームで贈呈式が行われ、全農長野の長谷川孝治県本部長が松本山雅FCの小澤修一社長にコートを手渡すと、小澤社長はスタンドのサポーターに披露しました(=表紙左下)

コートは黒色で右胸と背面に「三ツ山マーク」と「JA全農長野」の文字が入っています。ベンチコートの贈呈は2022年以来12回目で累計563枚、23年と24年はミニゴールを贈呈しました。

全農長野は今シーズンも、県産農畜産物をおして松本山雅FCを応援します。



©松本山雅FC

5月のラジオ番組表

放送日時	放送局	番組名	出演
5/13(火) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんの ずくだせえぶりでい内 「いいJAん家庭菜園」	JA松本ハイランド JAファーム今井店
5/28(水) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんの ずくだせえぶりでい内 「暮らしの応援団」	畜産酪農課

グリーンレーダー
X(旧ツイッター)はこちら



グリーンレーダー
WEB版はこちら



編集後記

春の花々が鮮やかに開花し、木々は薄緑色の新芽が日を追うごとに色を濃くしていき、美しい季節になってきました。信州の春の訪れは、本格的な農繁期の始まりでもあります。暖かくなってきましたが、四季の中でも、昔より春と秋の短さを体感することが多くなってきました。昨年の夏には、猛暑が続き、温暖化は着実に進んでいます。二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量によって、今世紀中に温暖化の影響で適地が北上する作物もあると予想されています。

戦争も温暖化を加速させる一要因となっているようです。ロシアによるウクライナ侵攻により、年間で約3,400万トンの温室効果ガスが排出されたとの調査報告もあります。これまでも、温室効果ガスの影響で海面水位が上昇し、気候変動による豪雨や熱波、大規模な山火事などが各地で発生しています。

本会としては、気象変動による高温や激甚化する災害への対応として、生産の安定化対策を講じています。その一環として、排水対策技術や施設化を提案するとともに、優良品種の検討もすすめています。また、環境負荷を軽減する資材や栽培技術の検討および普及に向けた試験を実施していきます。

安全・安心な農畜産物の供給を行い、持続可能な農業生産基盤を築くことで生産量の維持・拡大をはかり、農業や社会を取り巻く課題解決に向けて積極的に取り組んでいきます。

(丁)



春には春の
.....
JA全農長野です。



光と風と水のハーモニー

JA全農長野



光と風と水のハーモニー

JA全農長野



JA 全農長野ホームページ..... <https://www.nn.zennoh.or.jp>
インターネットで産地直送「JA タウン」..... <https://www.ja-town.com>

